



## KAKEHASHI Project 招へいプログラム 一般交流（日系人）の記録

### 1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、米国より日系人計 83 名が来日し、日本の政治、社会、歴史、文化および外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、平成 27 年 12 月 15 日から 12 月 22 日までの 7 泊 8 日の日程でプログラムを実施しました。

### 2. 参加国・人数

米国 83 名

### 3. 訪問地

東京都、京都府、滋賀県、福岡県

### 4. 日程

12 月 15 日（火）成田国際空港より入国

12 月 16 日（水）来日オリエンテーション

【日本の外交政策に関する講義】外務省北米局

【視察】海外移住資料館

12 月 17 日（木）～12 月 20 日（日） 地方プログラム

\* 京都府・滋賀県

【学校交流】滋賀県立大学

【歴史的建造物視察】金閣寺、清水寺、伏見稲荷大社

【ホームステイ】ホストファミリー対面式、歓送会

【ワークショップ】

\* 福岡県

【地方自治体表敬】福岡市

【学校交流】福岡大学

【伝統文化体験】大濠公園能楽堂

【ホームステイ】ホストファミリー対面式、歓送会

【ワークショップ】

12 月 21 日（月）東京へ移動

【成果報告会】訪日成果・帰国後活動計画発表

【企業訪問】日本アイ・ビー・エム株式会社

12 月 22 日（水）成田国際空港より出国

## 5. プログラム記録写真

### 都内プログラム



12/16【視察】海外移住資料館



12/21【企業訪問】  
日本アイ・ビー・エム株式会社

### 地方プログラム

#### 京都・滋賀グループ



12/17 歴史的建造物視察：清水寺（京都市）



12/18 歴史的建造物視察：伏見稲荷大社（京都市）



12/18 学校交流：滋賀県立大学（彦根市）



12/19 ホームステイ：愛のまち民泊推進協議会（東近江市）

## 福岡グループ



12/17 日本文化体験：大濠公園能楽堂  
(福岡市)



12/18 地方自治体：福岡市表敬（福岡市）



12/18 学校交流：福岡大学（福岡市）



12/18 歴史的建造物視察：櫛田神社  
(福岡市)



12/20 ホームステイ：歓送会（福岡市）



12/20 ワークショップ（福岡市）

## 6. 参加者の感想

### ◆ 日系人青少年（関西グループ）

滞在期間を通して強い印象を受けたのは、日本人が“おもてなし”に関して非常に真剣に考えているということです。日本のおもてなしのレベルはかなり高く、おそらく他のどの国においても、これほどまでのおもてなしを受けることはないでしょう。ホームステイ滞在中、特にそれを感じました。また滋賀県立大学への訪問も非常に印象に残るものでした。自分たちと同年代ではあるものの、違った文化で育った人達と話をするのはとても興味深い体験でした。彼らとは今後も連絡を取り続けていくことになると思うので、自由に話し合う機会をいただいたことに非常に感謝しています。個人的にも特に興味を持っている日本の文化や言葉については、他の人達にも伝えていきたいと思っています。

### ◆ 日系人青少年（関西グループ）

ホームステイを滞在中に、受け入れ先のお父さんとお母さんにこんなことを言われました。「アメリカの学生を預かると聞いた時に、お互いの文化や習慣を知ることになるだろうと思っていました。ところが、一緒に過ごしてみたら、あなた方の両親、祖父母の時代の伝統や文化でもあり、我々自身の過去の伝統や文化でもあるものを思い出しました。」

自分にとってはこの言葉が、今回のプログラムを集約していますし、また自分の中にもある日本的なものがどれほど豊かであるかを確認することにもなりました。今回、日本の文化や生活を毎日経験し、日本人がどれほど生活を大事にしているかが良くわかりました。

### ◆ 日系人青少年（九州グループ）

ホストファミリー、大学生の方々をはじめ、滞在期間中に会った全ての方々から受けた愛情と親切は本当に印象深いものでした。世界を見る私の視点を変え、そしてアメリカと日本のグローバルゼーション同様、文化の懸け橋をより発展させていくことを教えてくれたこのような素晴らしい方々に出会えたことは本当に光栄なことでした。日本は単一民族の国でありながら、日本人が様々な言語を学び、友人を作る努力をしていることに本当に驚きました。この滞在を通して、色々な方々とコミュニケーションをとり、言語と文化を学び、そして理解することの重要性、価値について学びました。これから、私は更に言語スキルを磨き、アメリカと日本との関係を築き続け、両国の医療システムを強化するために貢献していきたいと思います。

7. 参加者の帰国後の発信内容（報告会での）例/ 派遣国での発信内容

<p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=hoMsMWEjb2g">https://www.youtube.com/watch?v=hoMsMWEjb2g</a></p>	
<p>YouTube での動画発信</p>	<p>YouTube での動画発信</p>
<p><b>The Kakehashi Project: Bridging Two Cultures</b></p> <p>■ Action:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Expand outreach in university communities and other JA and API communities through presentations, social media reach, and spreading word of The Kakehashi Project and our new knowledge about Japan</li> <li>■ Utilize YouTube videos, PowerPoint presentations, and student photographs to share our experience in Japan with the Kakehashi Project</li> <li>■ Inspire and encourage people to learn more about Japan and experience it for themselves</li> </ul>	<p><b>Action Plan</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Host a Report back to JAACL Chapter</li> <li>Become Active JAACL Members</li> <li>Host Info Workshops of Kakehashi Projects to API University Organizations</li> <li>Share Info to Campus School Newspapers</li> <li>Share Stories + Pictures on Social Media</li> <li>Art Projects</li> </ul>
<p>アクションプラン</p>	<p>アクションプラン</p>